AMCRON
by HARMAN

パワーアンプ

XTi2 Series

(XTi 6002, XTi 4002, XTi 2002, XTi 1002)

取扱説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

2012年3月版

安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、
重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

⚠ 警告

■ 必ずAC100V(50Hz/60Hz)の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。

■ 必ず専用の電源ケーブルを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり危険です。また、同梱された電源ケーブルは、他の機器には使用しないでください。

■ 電源ケーブルの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して火災や感電の原因となります。

■ 確実にアース接続をしてください。また、アース線の脱着は電源を外してから行ってください。感電の原因となります。

■ 濡れた手で、電源ケーブルや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。

■ 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。

■ 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常が起きたときは、ただちに電源を外し修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

■ 必要な電流容量を安全に供給できるよう、適切な電源回路を用意してください。

■ 機器の重量に耐える強度を持った安定した場所に設置してください。また、ラックに設置する際は、前面パネルだけでなく背面パネルも固定してください。落下によるけがや故障の原因となります。

■ 以下のような場所には設置しないでください。火災や故障の原因となります。
- 直射日光のあたる場所
- 極度の低温または高温の場所
- 湿気の多い場所
- ほこりの多い場所
- 振動の多い場所

■ 通気性の良い場所に設置し、機器の吸気口や排気口は絶対に塞がないでください。熱がこもって、火災や故障の原因となります。

■ 機器の移動は、電源ケーブルや他の機器との接続ケーブルを全て外した上で行ってください。けがやケーブル破損の原因となります。

■ 他の機器との接続は、機器の電源を全て切ってから行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、各機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害や機器の破損の原因となります。

■ スピーカーの破損を防ぐため、電源を入れるときは一番最後にこの機器の電源を入れてください。また、電源を切るときは一番最初に電源を切ってください。

■ 出力の配線は、電源を切ってから10秒以上たった後で行ってください。また、出力ケーブルがシャーシや他のケーブルとショートしないよう十分注意してください。感電や故障の原因となります。

■ 大きな音量に連続してさらされると、聴覚障害の原因となります。音量の設定は慎重に行ってください。

■ 長時間使用しないとき、または落雷の恐れがあるときは、電源ケーブルを取り外してください。火災や感電、故障の原因となります。

目 次

安全上のご注意……P.02

目次……P.03

主な特徴……P.04

梱包内容の確認……P.04

各部の名称と機能

· 前面パネル……P.05

· 背面パネル……P.06

セットアップ

· クイックスタート·プリセットの呼出方法……P.08

· クイックスタート·プリセットの詳細と配線方法……P.08

DSP機能の操作

· DSP機能の概要……P.11

· プリセットの呼出方法……P.12

· 音声処理機能の設定の変更方法……P.12

· 音声処理機能の詳細……P.13

· DSPスイッチのロック……P.14

HiQnet System Architectソフトウェア

· ソフトウェアの概要……P.14

· ダウンロード……P.15

· インストール……P.16

· 起動と終了……P.18

· プリセットの呼び出しと上書き保存……P.18

· ファン回転速度の切り替え……P.18

仕様……P.19

トラブルシューティング……P.19

主な特徴

XTi2 Seriesは、高性能なDSPを搭載しており、様々な音声処理機能を1台で実行可能。シンプルな音響システムの構築とスムーズなセットアップを実現します。また、軽量コンパクトなボディーは、仮設PAにも最適です。

■ 高性能なDSPを搭載しており、別途プロセッサーを用意しなくても様々な音声処理が1台で実行できます。クロスオーバーのスロープはバターワース(6,12,18,24,48dB/oct)、リンクウィッツ·ライリー(24,48dB/oct)から自由に選択でき、周波数も1Hz刻みで任意の値に設定可能。入力8ポイント+出力6ポイントのパラメトリックEQや最大50mSのディレイもチャンネルごとに備えています。

■ 入力信号に基づいて超低域を合成し、パワフルな重低音を出力するサブハーモニック·シンセサイザーを搭載しています。

■ DSPの設定はプリセットとして本体に49個まで保存でき、瞬時に呼び出すことができるため、セットアップを素早く簡単に完了できます。システムのチェックに便利なピンクノイズ発信器も装備しました。

■ DSPの詳細な設定やプリセットの保存は、USB接続したPC上のHiQnet System Architectソフトウェアから行うことができます。XTi2 Seires専用のHiQnet Band Managerソフトウェアも用意しています。

■ 軽量コンパクトなボディーで持ち運びが容易なため、仮設PAにも最適です。

■ 発熱が少なく高効率なスイッチング電源を搭載し、クラスを超えた出力性能を実現しています。さらにXTi 6002は、独自のClass-I増幅回路を採用。2Ωのステレオ出力では3,000W+3,000W、4Ωのブリッジモノ出力では6,000Wもの出力が可能で、大型のスピーカーはもちろん、多数のキャビネットを駆動するラインアレイ·スピーカーも余裕を持ってドライブします。

■ スレッショルド、アタック、リリースのきめ細かな設定が可能なPeak X Plusリミッターを備えており、出力性能を最大限に引き出します。

■ 入力信号は本体内部でルーティングが可能です。入力信号を分岐するリンク端子も装備しています。出力はバインディングポストとスピコンの2つの端子を用意しました。

■ 前面パネルには、プリセットの呼び出しや、DSPの設定を行う大型のバックライト付き液晶ディスプレイを搭載。ディスプレイの操作を禁止するロック機能も装備しています

■ 鋳造アルミニウム製の前面パネルと一体化したハンドルは、持ち運びに便利です。

梱包内容の確認

パッケージに次の物が入っていることを確認してください。

■ 本体

■ 電源ケーブル(XTi 4002, XTi 2002, XTi 1002のみ)
※XTi 6002にはC型コネクターの電源ケーブルがあらかじめ取り付けられています。

■ 英文取扱説明書

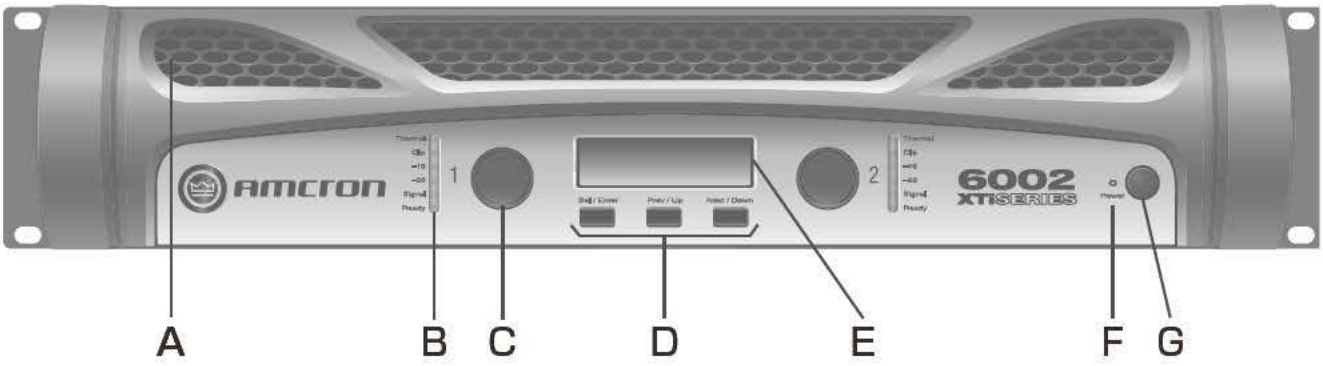
■ 和文取扱説明書

■ 保証書

各部の名称と機能

前面パネル

XTi 6002について記載していますが、他のモデルも同様です。



A. 通気口

背面パネルに搭載されている冷却ファンの空気の吸い込み口です。絶対にふさがないでください。

B. インジケーター

本機の動作状態を表示するインジケーターです。各チャンネルに1系統搭載しています。

Thermalインジケーター：過熱状態になると赤く点灯します。
Clipインジケーター：信号がクリップすると赤く点灯します。
−10インジケーター：信号がクリップする−10dB手前を超えると緑色に点灯します。
−20インジケーター：信号がクリップする−20dB手前を超えると緑色に点灯します。
Signalインジケーター：ごく低いレベル(−40dBu)でも入力信号があれば緑色に点灯します。
Readyインジケーター：信号が出力可能な状態になると緑色に点灯します。

C. レベルつまみ

クリック付きの回転式レベルつまみです。各チャンネルに1系統搭載しています。

D. DSPスイッチ

プリセットの呼び出しやDSP機能の操作を行うスイッチです。Sel/Enterスイッチ, Prev/Upスイッチ, Next/Downスイッチの3つのスイッチが搭載されています。

E. 液晶ディスプレイ

プリセットの呼び出しやDSP機能の操作を行う、バックライト付き液晶ディスプレイです。

F. 電源インジケーター

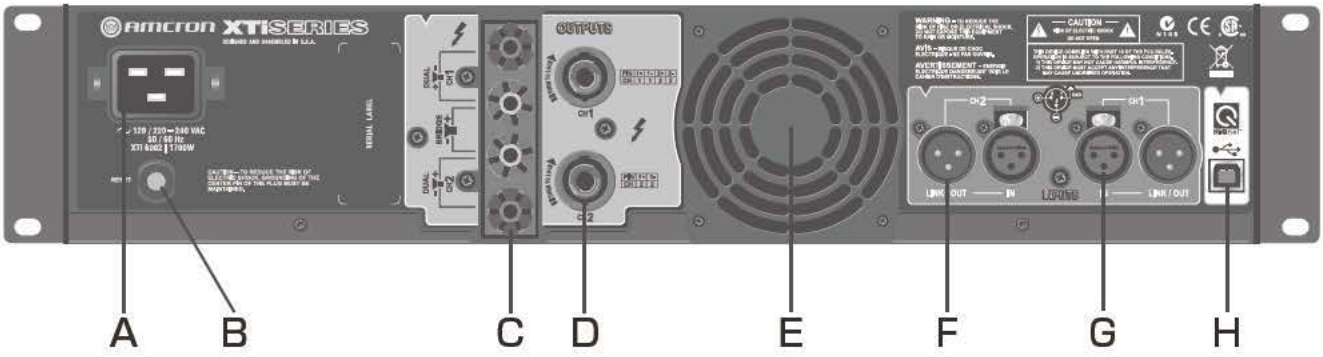
電源のオン/オフを表示するインジケーターです。電源がオンになると青色に点灯します。

G. 電源スイッチ

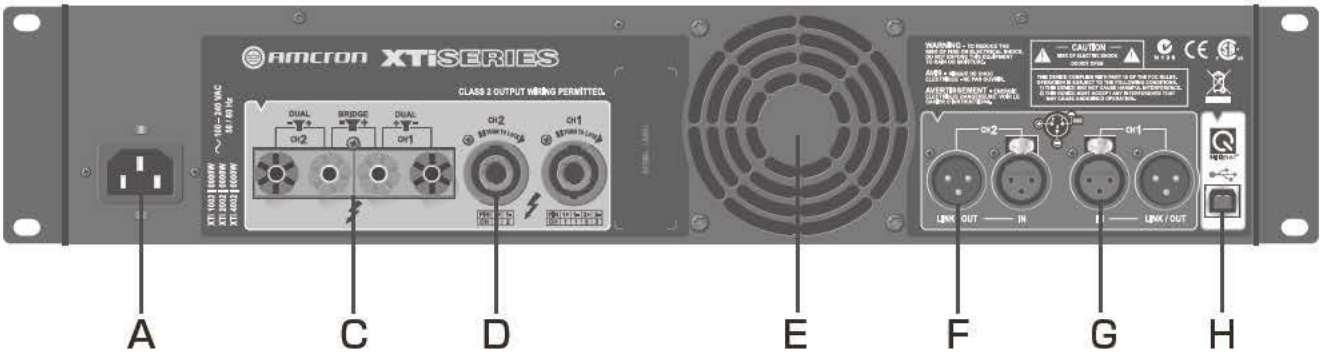
電源のオン/オフ・スイッチです。

背面パネル

XTi 6002



XTi 4002, XTi 2002, XTi 1002



A. 電源端子

電源ケーブルを取り付ける端子です。XTi 6002にはC型コネクターの電源ケーブルがあらかじめ取り付けられています。

B. リセットスイッチ

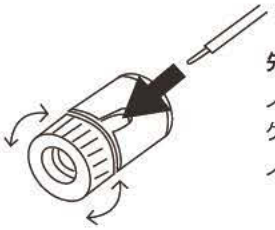
ブレーカーのリセット･スイッチです。XTi 6002にのみ搭載されています。

C. バインディングポスト出力端子

スピーカーを接続する端子です。バナナプラグや先バラのスピーカー･ケーブルが接続できます。

※バインディングポスト出力端子とスピコン出力端子は並列接続されているため、どちらか一方を使用してください。

バナナプラグの場合
ノブを強く締めて、
前面から差し込みます。



先バラの場合
ノブをゆるめ、絶縁部をはがした
ケーブルを側面の穴に差し込み、
ノブをしっかりと締めます。

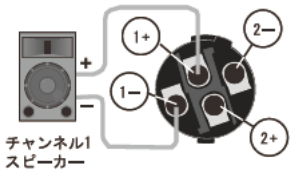
D. スピコン出力端子

スピーカーを接続する端子です。ノイトリック製NL4FX端子のスピーカー･ケーブルが接続できます。

※バインディングポスト出力端子とスピコン出力端子は並列接続されているため、どちらか一方を使用してください。
※2つのスピーカーに信号を送り出す際にスピコン出力端子を使用する場合、次の2通りの接続方法があります。どちらかの方法を選択してください。

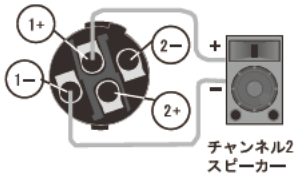
①CH1とCH2の両方のスピコン出力端子を使用する。

●チャンネル1



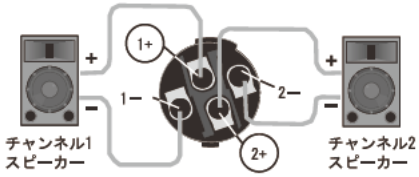
チャンネル	1	
極性	＋	−
スピコンのピン番号	1＋	1−

●チャンネル2



チャンネル	2	
極性	＋	−
スピコンのピン番号	1＋	1−

②CH1のスピコン出力端子のみを使用する。



チャンネル	1		2	
極性	＋	−	＋	−
スピコンのピン番号	1＋	1−	2＋	2−

E. 冷却ファン

冷却用のファンです。空気を前面パネルの通気口から吸い込み背面へ送り出します。ファンの回転速度は3段階から選択できます。

F. リンク出力端子

入力端子からの信号を他の音響機器へそのまま送り出す端子です。バランス仕様XLR 3ピンのラインケーブルが接続できます。各チャンネルに1系統搭載しています。

G. 入力端子

ミキサー等を接続する端子です。バランス仕様XLR 3ピンのラインケーブルが接続できます。各チャンネルに1系統搭載しています。

H. HiQnet USB端子

PCと接続するためのUSB タイプB端子です。

セットアップ

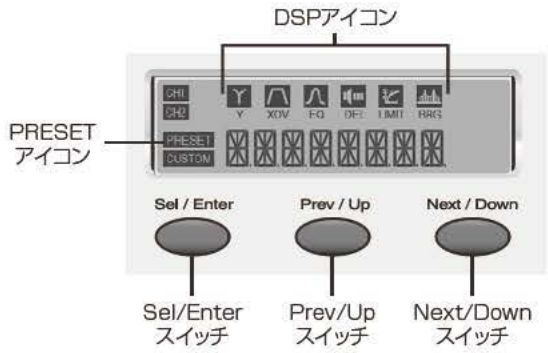
ここでは、本機にあらかじめ用意されているクイックスタート･プリセットを使って簡単に設定を行う場合の、セットアップの方法を説明します。

クイックスタート･プリセットの呼出方法

1. Sel/Enterスイッチを押して、ディスプレイに「PRESET」という文字を点滅させます。
2. もう一度Sel/Enterスイッチを押して、ディスプレイの左下に「PRESET」のアイコンを点滅させます。
3. Prev/UpスイッチまたはNext/Downスイッチを操作して、ディスプレイに希望のプリセットを表示させます。

   ※本機の電源を初めて入れた時は「DSP OFF」が表示されています。Next/Downスイッチを一回押すごとに「BRIDGE」「XOVER」「BRG SUBS」「SUBSYNTH」と表示が変わります。行き過ぎた場合は、Prev/Upスイッチを押せば一つ前に戻ります。
4. Sel/Enterスイッチを押して選択を確定します。ディスプレイに選択したプリセット名が表示され、そのプリセットで使用されているDSPの信号処理機能に対応したDSPアイコンが表示されます。

   ※DSPスイッチを押してから10秒間何も操作を行わなかった場合は、現在のプリセットに戻ります。



クイックスタート･プリセットとは?

パワーアンプがよく使用される状況を想定し、その状況に最適なDSPによる音声処理機能の組み合わせを作り、その情報をあらかじめ本体に記憶したものがクイックスタート･プリセットです。呼び出すだけで再現できるため、素早いセットアップが可能です。本機には「BRIDGE」「XOVER」「BRG SUBS」「SUBSYNTH」の4種類のクイックスタート･プリセットが保存されています。また、初期状態の「DSP OFF」では、通常のステレオ･パワーアンプとして働きます。

※本機の電源を初めて入れた時は、通常のステレオ･パワーアンプとして働き、液晶ディスプレイには「DSP OFF」と表示されます。2回目以降は、前回の電源切断時に使用していたプリセットが再現されます。

クイックスタート･プリセットの詳細と配線方法

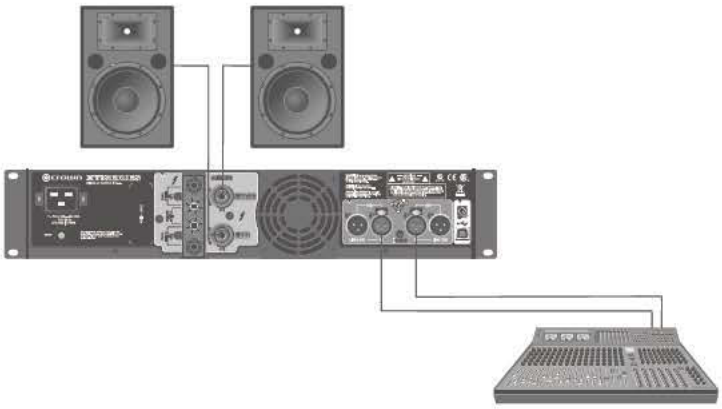
DSP OFF

DSPによる信号処理を行わない、通常のステレオ･パワーアンプとして使用する場合のプリセットです。
工場出荷時はこの状態に設定されています。接続方法は以下の通りです。

配線方法

- CH1およびCH2の入力端子にミキサー等を接続します。
- CH1およびCH2のバインディングポスト出力端子またはスピコン出力端子にスピーカーを接続します。

  ※スピコン出力端子を使用する場合、2通りの接続方法があります。詳しくは07ページをご覧ください。



BRIDGE

ステレオ･パワーアンプを1CHのパワーアンプとして動作させ、2倍の出力電圧で1つのスピーカーをドライブするためのプリセットです(ブリッジモノ出力)。大型のスピーカーをドライブしたい場合に使用します。4Ω以上のインピーダンスを持ったスピーカーを接続してください。

配線方法

・CH1およびCH2の入力端子にミキサー等を接続します。

・CH1およびCH2のバインディングポスト出力端子またはスピコン出力端子にスピーカーを接続します。

バインディングポスト出力端子を使用する場合

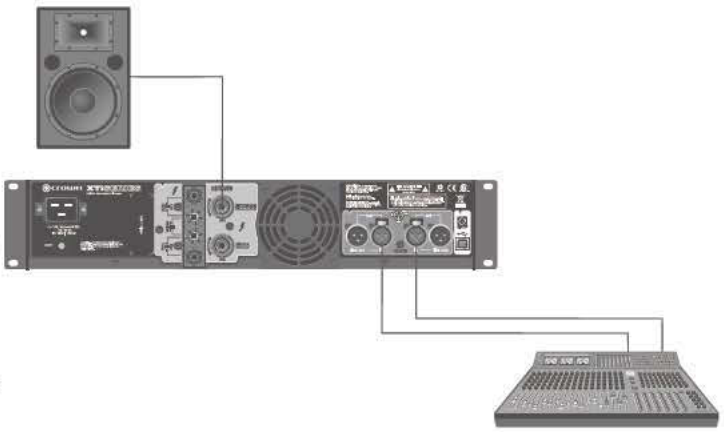
CH1の+端子にスピーカーの+端子を接続し、CH2の+端子にスピーカーの−端子を接続します。

スピコン出力端子を使用する場合

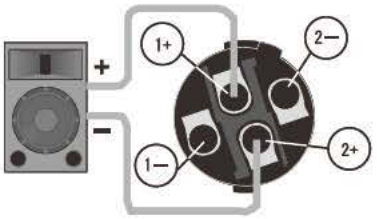
CH1出力のみを使用します。1+端子にスピーカーの+端子を接続し、2+端子にスピーカーの−端子を接続します。

※このプリセットを選択すると、入力モードは「CH1+CH2」に設定され、CH1の入力信号とCH2の入力信号はミックスされます。

※このプリセットでドライブするときは、CH1のレベルつまみのみを使用します。



ブリッジモノ出力時のスピコン出力端子の接続方法



チャンネル	1	
極性	+	−
スピコンのピン番号	1+	2+

XOVER

内蔵のクロスオーバー機能を使用して、2Wayのスピーカーを1台のパワーアンプで駆動するためのプリセットです。クロスオーバー周波数1200Hz、リンクイッツライリ(24dB/oct)のLP/HPフィルターがONになり、周波数1200Hz以下の信号はCH1出力、1200Hz以上の信号はCH2出力に送られます。

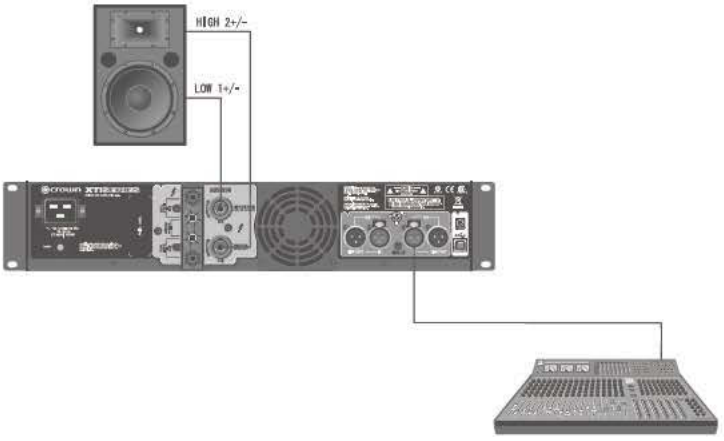
配線方法

・CH1の入力端子のみにミキサー等を接続します。

・CH1およびCH2のバインディングポスト出力端子またはスピコン出力端子にスピーカーを接続します。CH1の出力端子には中低域(1200Hz以下)用スピーカーを、CH2の出力端子には高域(1200Hz以上)用スピーカーを接続してください。

※このプリセットを選択すると、入力モードは「INPUT Y」に設定され、CH1の入力信号をCH1出力およびCH2出力に送ります。CH2の入力信号は無視されます。

※スピコン出力端子を使用する場合、2通りの接続方法があります。詳しくは07ページをご覧ください。



BRG SUBS

ステレオ·パワーアンプを1CHのパワーアンプとして動作させ、2倍の出力電圧で1台のサブウーファーをドライブするためのプリセットです(ブリッジモノ出力)。内蔵のクロスオーバー機能により、クロスオーバー周波数90Hz、リンクイッツライリ(24dB/oct)のLPフィルターがONになります。4Ω以上のインピーダンスを持ったスピーカーを接続してください。

配線方法

- CH1およびCH2の入力端子にミキサー等を接続します。
- CH1およびCH2のバインディングポスト出力端子またはスピコン出力端子にサブウーファーを接続します。

バインディングポスト出力端子を使用する場合

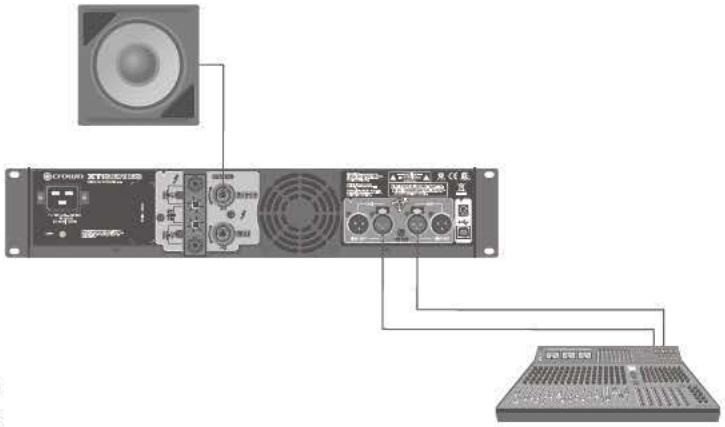
CH1の+端子にサブウーファーの+端子を接続し、CH2の+端子にサブウーファーの−端子を接続します。

スピコン出力端子を使用する場合

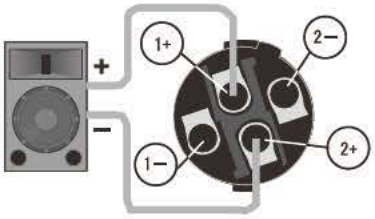
CH1出力のみを使用します。1+端子にサブウーファーの+端子を接続し、2+端子にサブウーファーの−端子を接続します。

※このプリセットを選択すると、入力モードは「CH1+CH2」に設定され、CH1の入力信号とCH2の入力信号はミックスされます。

※このプリセットでドライブするときは、CH1のレベルつまみのみを使用します。



ブリッジモノ出力時のスピコン出力端子の接続方法



チャンネル	1	
極性	+	−
スピコンのピン番号	1+	2+

SUBSYNTH

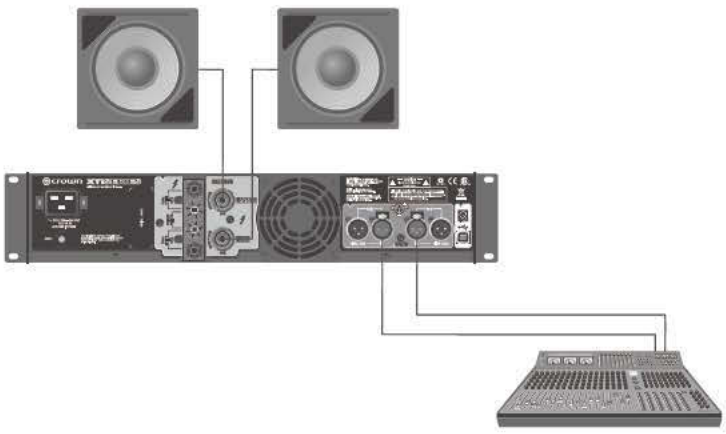
2台のサブウーファーをドライブするためのプリセットです。低域を増強するサブハーモニック·シンセサイザー機能がONになり、迫力のある低域が得られます。内蔵のクロスオーバー機能により、クロスオーバー周波数90Hz、リンクイッツライリ(24dB/oct)のLPフィルターがONになります。

配線方法

- CH1およびCH2の入力端子にミキサー等を接続します。
- CH1およびCH2のバインディングポスト出力端子またはスピコン出力端子にサブウーファーを接続します。

※このプリセットを選択すると、入力モードは「CH1+CH2」に設定され、CH1の入力信号とCH2の入力信号はミックスされます。

※スピコン出力端子を使用する場合、2通りの接続方法があります。詳しくは07ページをご覧ください。



DSP機能の操作

DSP機能の概要

本機は高性能なDSPを搭載しており、様々な音響出力系の音声処理機能を1台で実行できます。ここでは、音声処理機能の設定方法やその詳細を説明します。

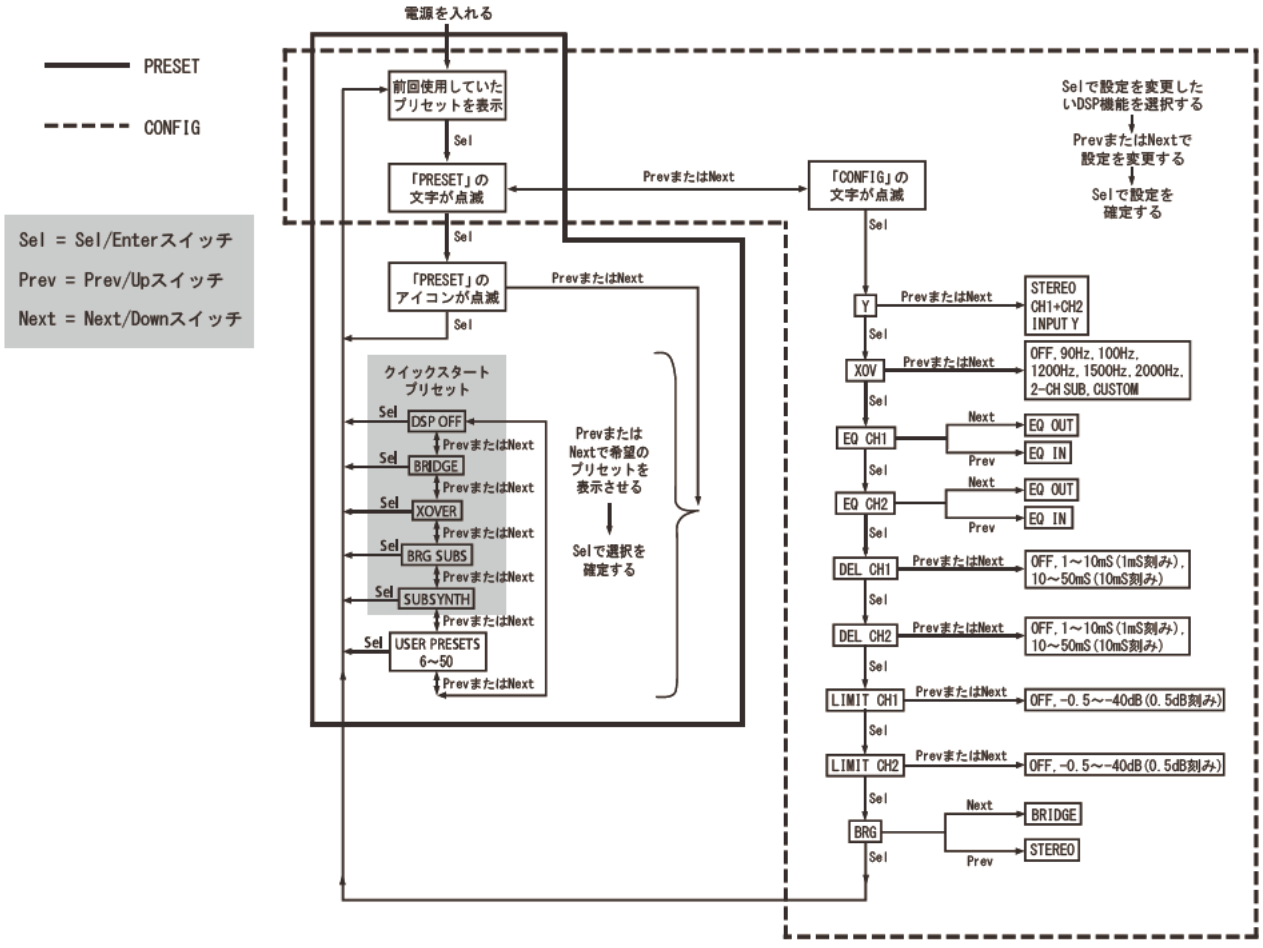
※本機のみで設定できる音声処理機能は一部です。全ての機能を操作するためには、本機とHiQnet System Architectソフトウェアをインストールしたパソコンを USBケーブルで接続し、HiQnet System Architectソフトウェアから本機を操作する必要があります。HiQnet System Architectソフトウェアを使用しないと以下の機能が利用できません。

- DSPの設定をプリセットとして本機に保存する。
- 本機に保存されているプリセットのバックアップを取る。
- 各音声処理機能の詳細な設定を行う。
- サブハーモニック・シンセサイザー機能のON/OFFや設定を行う。
- 電源回路の温度やAC電源電圧の監視をする。
- チャンネルをミュートする。
- ピンクノイズを出力する。

※DSPの設定は、プリセットとして49個まで本体に保存できます。
※サブハーモニック・シンセサイザー機能を利用すると、入力信号に基づいて超低域を合成し、パワフルな重低音を出力することができます。
※HiQnet System Architectソフトウェアで表示できる電源電圧はレール電圧であり近似値です。

本機の音声処理機能の設定は、前面パネルのDSPスイッチと液晶ディスプレイで行います。下図では、DSPスイッチと液晶ディスプレイの操作方法を系統立てて示しています。操作によって変更できる項目は、保存されているプリセットを再現する「PRESET」と、音声処理機能の設定を変更する「CONFIG」に大別されます。

※DSPスイッチを押してから10秒間何も操作を行わなかった場合は、現在のプリセットに戻ります。



プリセットの呼出方法

1. Sel/Enterスイッチを押して、ディスプレイに「PRESET」という文字を点滅させます。
2. もう一度Sel/Enterスイッチを押して、ディスプレイの左下に「PRESET」のアイコンを点滅させます。
3. Prev/UpスイッチまたはNext/Downスイッチを操作して、ディスプレイに希望のプリセットを表示させます。

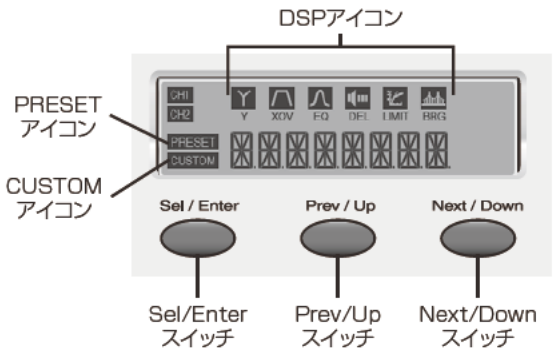
   ※本機の電源を初めて入れた時は「DSP OFF」が表示されています。Next/Downスイッチを一回押すごとにプリセットが一つ先に進み、Prev/Upスイッチを押せば一つ前に戻ります。

4. Sel/Enterスイッチを押して選択を確定します。ディスプレイに選択したプリセット名が表示され、そのプリセットで使用されているDSPの信号処理機能に対応したDSPアイコンが表示されます。

音声処理機能の設定の変更方法

1. Sel/Enterスイッチを押して、ディスプレイに「PRESET」という文字を点滅させます。
2. Prev/UpスイッチまたはNext/Downスイッチを押して、ディスプレイに「CONFIG」という文字を点滅させます。
3. Sel/Enterスイッチを押して、「入力モード」の設定画面を表示させます。その時、上部にはYのDSPアイコンが点滅します。
4. Prev/UpスイッチまたはNext/Downスイッチを押して「入力モード」の設定を変更します。「入力モード」の設定を変更する必要がなければ、そのまま5に進んでください。
5. 再びSel/Enterスイッチを押して「入力モード」の設定を確定するとともに、「クロスオーバー」の設定画面を表示させます。Sel/Enterスイッチを1回押すごとに異なる機能の設定画面が表示されるので、4、5の手順を繰り返して設定を変更してください。

※プリセットの保存はHiQnet System Architectソフトウェアを使用しないとできません。本機だけで設定の変更を行って、その後電源を切ったり他のプリセットを呼び出すと、変更した設定は無効となり、変更前のプリセットが再現されます。また、本機だけで設定の変更を行った場合、ディスプレイの左下に「CUSTOM」のアイコンが点灯します。



音声処理機能の詳細

本機で設定可能な音声処理機能は以下の通りです。

Y

入力モード

入力信号の出力先や出力方法を設定します。「STEREO」「CH1+CH2」「INPUT Y」から選択できます。「STEREO」以外に設定するとYのDSPアイコンが点灯します。

STEREO

CH1の入力信号をCH1出力に、CH2の入力信号をCH2出力に送ります。レベルつまみは両CHとも有効です。

INPUT Y

CH1の入力信号をCH1出力およびCH2出力に送ります。CH2の入信号は無視されます。レベルつまみはCH1のみ有効です。

CH1+CH2

CH1の入力信号とCH2の入力信号をミックスして、CH1とCH2の両出力に送ります。この場合、レベルが6dBブーストされます。レベルつまみは両CHとも有効です。

※HiQnet System Architectソフトウェアではピンクノイズの出力が可能です。

XOV

クロスオーバー

クロスオーバー周波数を設定します。「OFF」「90Hz」「100Hz」「1200Hz」「1500Hz」「2000Hz」「2-CH SUB」「CUSTOM」から選択できます。「OFF」以外の設定でXOVのDSPアイコンが点灯します。

※クロスオーバー機能では、「2-CH SUB」以外は常にCH1は低域、CH2は高域に設定されます。CH1に高域ドライバーを接続しないでください。
※「2-CH SUB」に設定すると、CH1、CH2ともに90Hzのローパス・フィルターが挿入されます。
※HiQnet System Architectソフトウェアでクロスオーバーの設定を行った場合、ディスプレイには「CUSTOM」の文字が表示されます。ソフトウェアでは以下のようなより詳細な設定が可能です。

- チャンネルごとにハイパス・フィルターやローパス・フィルター、位相反転機能を搭載。バンドパス・ゲインの調整も可能。
- 周波数は1Hz刻みで任意の値に設定可能。
- スロープはバターワース(6,12,18,24,48dB/oct)、リンクウィッツライリ(24,48dB/oct)から自由に選択。

EQ

イコライザー

チャンネルごとにイコライザーのON/OFFを設定します。「IN」に設定するとONに、「OUT」に設定するとOFFになります。「IN」(ON)でEQのDSPアイコンが点灯します。

※イコライザーの設定は全てHiQnet System Architectソフトウェアで行います。本機は2つのイコライザーを搭載しています。一つはクロスオーバーの前段に配置されており、通常は音場調整に使用します。もう一つはクロスオーバーの後ろに配置されており、通常はスピーカーの調整に使用します。「IN」に設定すると2つのイコライザーがONになります。

※インプットEQ、アウトプットEQともに、チャンネルごとに6個のピーキング・フィルターを備えており、それぞれ周波数、ゲイン、Qの調整が可能です。さらにインプットEQには、ゲインおよび周波数の調整が行える高域／低域用シェルビング・フィルターも備えています。全てのフィルターの周波数は、1Hz刻みで任意の値に設定可能です。

DEL

ディレイ

チャンネルごとにディレイ・タイムを設定します。「OFF」「1～10mS(1mS刻み)」「10～50mS(10mS刻み)」から選択できます。「OFF」以外の設定でDELのDSPアイコンが点灯します。

※HiQnet System Architectソフトウェアでディレイの設定を行った場合、ディスプレイには設定したディレイ・タイムが表示されます。ソフトウェアでは以下のようなより詳細な設定が可能です。

- ディレイ・タイムは21uS刻みで任意の値に設定可能。
- ディレイ・タイムが分からない場合は距離(フィート、メートル)でも設定可能。入力値に応じてディレイ・タイムを自動計算。

LIMIT

リミッター

チャンネルごとにPeak X Plusリミッターのスレッショルドを設定します。「OFF」「−0.5～−40dB(0.5dB刻み)」から選択できます。「OFF」以外の設定でLIMITのDSPアイコンが点灯します。

※HiQnet System Architectソフトウェアでは以下のようなより詳細な設定が可能です。

- スレッショルドの値は0.1dB刻みで任意の値に設定可能。
- アタック・タイムは0.01S刻みで最大1Sまで、リリース・タイムは0.1S刻みで最大10Sまで、任意の値に設定可能。

BRG

出力モード

出力をステレオまたはブリッジモノに切り替えます。「BRIDGE」に設定した場合、CH1に信号を入力してください。「BRIDGE」に設定するとBRGのDSPアイコンが点灯します。

DSPスイッチのロック

DSPスイッチ(Sel/Enterスイッチ、Prev/Upスイッチ、Next/Downスイッチ)をロックして不用意な設定の変更を防止することができます。前面パネルのPrev/UpスイッチとNext/Downスイッチを押し続けると、液晶ディスプレイの表示が「現在のプリセット名」→「LOCKED」→「UNLOCKED」と変わっていきます。「LOCKED」が表示されているときにスイッチを放すとDSPスイッチがロックされます。レベルつまみはロックされません。ロックを解除するときは、前面パネルのPrev/UpスイッチとNext/Downスイッチを押し続けて「UNLOCKED」が表示されているときにスイッチを放します。

※DSPスイッチはHiQnet System Architectソフトウェアからロックをすることもできます。ただし、ソフトウェアからロックした場合、ロックの解除はソフトウェアから行う必要があります。前面パネルからロックを解除することはできません。

HiQnet System Architectソフトウェア

ソフトウェアの概要

本機は、PCコントロール用のソフトウェアHiQnet System Architectを使用して、DSPの設定をプリセットとして保存したりDSPによる音声処理機能の詳細な設定を行うことができます。またHiQnet System Architectは本体の設定や制御だけではなく、先進のデジタル技術を用いて複数の機器とのデジタル・ネットワークを構築することも可能です。JBL PROFESSIONALやdbxから販売されているHiQnet System Architect対応製品もPCで一括してコントロールできます。

※PCとの接続にはABタイプのUSBケーブルが必要です。

※HiQnet System Architectソフトウェアを使用して、本機を2台以上同時にコントロールする場合はUSBハブが必要です。USBハブはパワード・タイプを使用してください。

※XTi2 Seiresの設定や制御のみを行うHiQnet Band Managerソフトウェアも用意しています。

2012年2月現在で公開されているHiQnet System Architect 3.0ソフトウェアの動作環境は以下の通りです。
Mac OSには対応しておりません。

最小動作環境

OS ： 32bit版または64bit版のWindows XP, Windows Vista, Windows 7

CPU ： Intel 32bit Pentium Dual-Core 2GHz

メモリ ： 2GB以上

HDD ： 最低400MB以上の空きが必要

推奨動作環境

OS ： 64bit版のWindows Vista, Windows 7

CPU ： Intel 64bit Pentium Dual-Core 2.5GHz

メモリ ： 4GB以上

HDD ： 最低400MB以上の空きが必要

ダウンロード

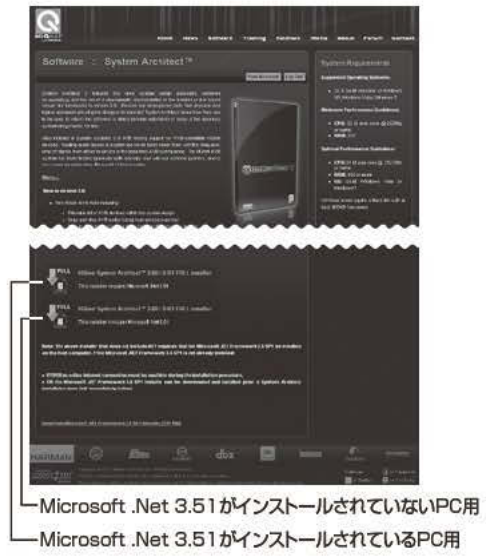
以下の手順に従ってHiQnet System Architectソフトウェアをダウンロードしてください。

① Harman ProfessionalのHiQnetのウェブサイト「http://hiqnet. harmanpro.com/」にアクセスします。「Software」をクリックしHiQnet Softwareのページに進んでください。

② 「HiQnet System Architect」をクリックしログイン画面に進みます。既にユーザー登録が済んでいる方はメールアドレスとパスワードを入力し、Log Inをクリックして⑤に進んでください。ユーザー登録が済んでいない方はユーザー登録を行う必要がありますので「Create one for free.」をクリックして③に進んでください。

③ 必要事項を入力してください。メールアドレス、パスワード、名前、アップデートのお知らせをメールで受け取るかの確認は必ず入力する必要があります。入力が済みましたら「Submit」をクリックしてください。その後、入力内容の確認画面が出ますので、間違いがなければ「Yes」をクリックしてください。

④ 入力したメールアドレスに確認のメールが届きます。メールアドレスに記載されているURLをクリックして登録を完了させてください。その後②に戻りログインします。



⑤ お持ちのPCに合わせたソフトウェアをダウンロードします。

※System Architect 3.0を操作するためには、Microsoft .Net 3.51が必要です。使用するPCにMicrosoft .Net 3.51がインストールされているか確認してください。「コントロールパネル>プログラムの追加と削除」で確認できます。

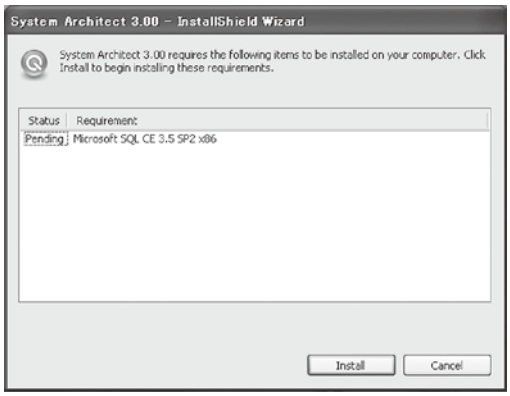
インストール

以下の手順に従ってHiQnet System Architectソフトウェアをインストールしてください。

① ダウンロードしたフォルダを解凍します。

② 「System Architect3.00.exe」をダブルクリックしてインストーラーを起動させます。

③ HiQnet System Architectをインストールするために必要となる、Microsoft SQL CEをインストールします。「Install」をクリックしてください。


System Architect 3.00 - InstallShield Wizard
System Architect 3.00 requires the following items to be installed on your computer. Click Install to begin installing these requirements.
Status
Requirement
Pending
Microsoft SQL CE 3.5 SP2 x86
Install
Cancel

④ HiQnet System Architectのインストールを開始します。「Next」をクリックしてください。

System Architect 3.00 - InstallShield Wizard
Welcome to the InstallShield Wizard for System Architect 3.00
The InstallShield(R) Wizard will install System Architect 3.00 on your computer. To continue, click Next.
WARNING: This program is protected by copyright law and international treaties.
Next >
Cancel

⑤ ショートカットの設定を行います。必要に応じてチェックを入れてください。終わりましたら「Next」をクリックしてください。

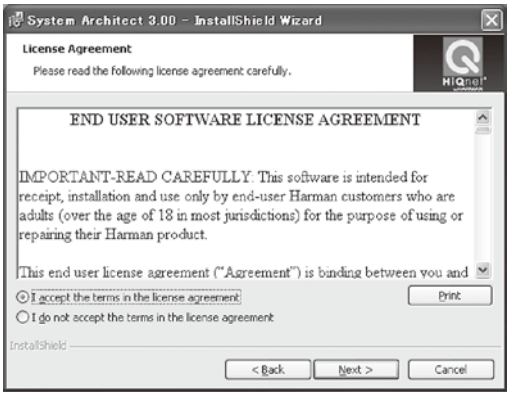
System Architect 3.00 - InstallShield Wizard
Shortcut and Startup Options
Select which application shortcuts to install.
Create application shortcuts for System Architect
Create application shortcuts for System Architect Kiosk Mode
Create a System Architect Kiosk Mode shortcut in the Windows startup directory to launch Kiosk Mode automatically on boot-up. Warning! Kiosk Mode prevents access to all Windows operations.
InstallShield
< Back
Next >
Cancel

・「Create application shortcuts for System Architect」にチェックを入れるとデスクトップにHiQnet System Architectのショートカットが作成されます。

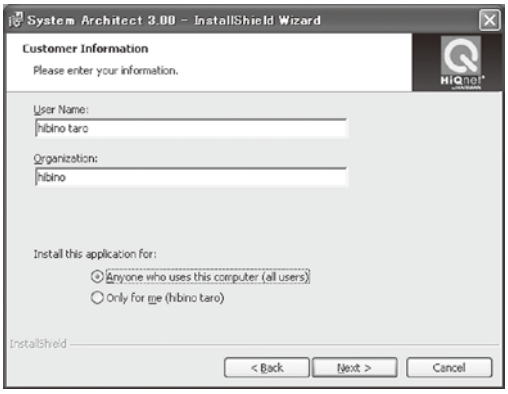
・「Create application Shortcuts for System Architect Kiosk Mode」にチェックを入れるとデスクトップにキオスク･モードのHiQnet System Architectのショートカットが作成されます。さらに、「Create a System Architect～」にチェックを入れるとキオスク･モードのHiQnet System ArchitectがWindowsを起動するのと同時に立ち上がるようになります。

※キオスク･モードは、全ての編集機能を無効にしたオンライン専用のモードです。不用意な設定の変更を防止できるので、実際の運用の際に便利です。詳細はHiQnet System Architectソフトウェアの Helpをご覧ください。

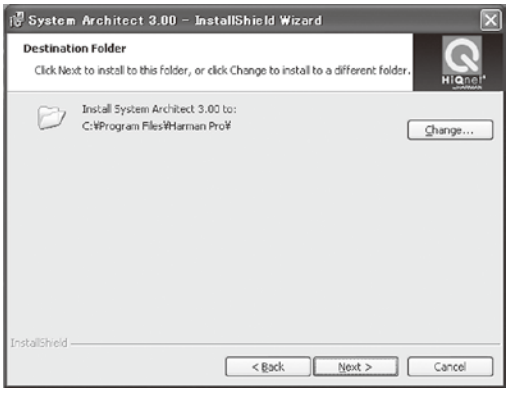
⑥ HiQnet System Architectの使用許諾条件が記載されています。内容に問題がなければ、「I accept the terms in the license agreement」にチェックを入れ、「Next」をクリックしてください。


System Architect 3.00 - InstallShield Wizard
License Agreement
Please read the following license agreement carefully.
END USER SOFTWARE LICENSE AGREEMENT
IMPORTANT-READ CAREFULLY: This software is intended for receipt, installation and use only by end-user Harman customers who are adults (over the age of 18 in most jurisdictions) for the purpose of using or repairing their Harman product.
This end user license agreement ("Agreement") is binding between you and
I accept the terms in the license agreement
I do not accept the terms in the license agreement
Print
InstallShield
< Back
Next >
Cancel

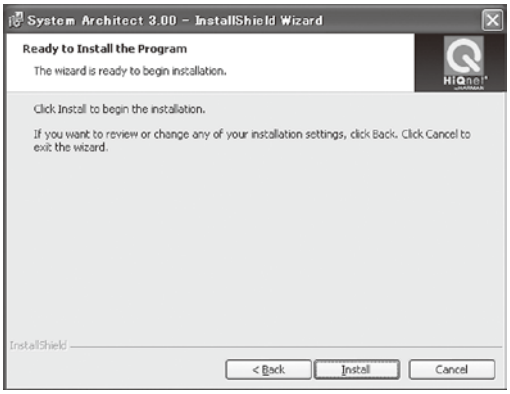
⑦ 使用者の情報を登録します。「User Name(名前)」と「Organization (所属組織)」を入力し、「Next」をクリックしてください。



⑧ System Architectをインストールする場所を選択します。通常はそのままで問題ありません。終わりましたら「Next」をクリックしてください。


System Architect 3.00 - InstallShield Wizard
Destination Folder
Click Next to install to this folder, or click Change to install to a different folder.
Install System Architect 3.00 to:
C:¥Program Files¥Harman Pro¥
Change...
InstallShield
< Back
Next >
Cancel

⑨ インストールの最終的な確認です。インストールする場合は「Install」をクリックしてください。


System Architect 3.00 - InstallShield Wizard
Ready to Install the Program
The wizard is ready to begin installation.
Click Install to begin the installation.
If you want to review or change any of your installation settings, click Back. Click Cancel to exit the wizard.
InstallShield
< Back
Install
Cancel

⑩ 正常にインストールが完了しました。

System Architect 3.00 - InstallShield Wizard
InstallShield Wizard Completed
The InstallShield Wizard has successfully installed System Architect 3.00. Click Finish to exit the wizard.
< Back
Finish
Cancel

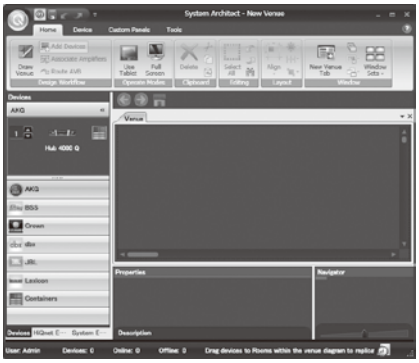
※インストールが正しく行われなかった場合はSystem Architectをフォルダーごと削除するか、プログラムを削除して、再度インストールを行ってください。

※インストールが正しく行われなかった場合はSystem Architect(通常は「Cドライブ>Program Files>Harman Pro内」)をフォルダーごと削除するか、「スタート>すべてのプログラム>Harman Pro>SystemArchitect>Uninstall System Architect」をクリックしてプログラムの削除を行い、再度インストールを行ってください。

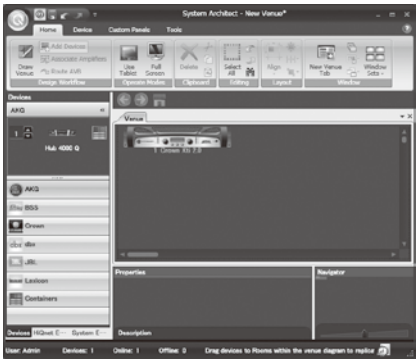
起動と終了

タスクバーの「スタート」メニューから、「すべてのプログラム」→「Harman Pro」→「System Architect」→「System Architect」をクリックすると、HiQnet System Architectソフトウェアが起動し、以下の画面が開きます。その後、本機とPCをUSBケーブルで接続すると、HiQnet System Architectソフトウェアが自動的に認識し、以下の画面のように本機の前面パネルが表示されます。HiQnet System Architectソフトウェアを終了させる場合は、画面右上の「×」をクリックしてください。

起動画面



本機認識後の画面



プリセットの呼び出しと上書き保存

画面に現れた本機の前面パネルをダブルクリックすると、メイン･コントロールパネルが現れます。上部の「PRESET」には現在再現されているプリセットが表示されています。本機に保存されているプリセットを呼び出すためにはその右にある「RECALL」をクリックして、呼び出したいプリセットを選択し、OKをクリックします。本機やHiQnet System ArchitectソフトウェアでDSPの設定を変更後、その設定を本機のプリセットに保存したい場合は、「STORE」をクリックして、保存したいプリセットを選択し、OKをクリックします。プリセットには任意の名前をつけることもできます。

※プリセットは上書きされ、以前の設定は消去されます。ご注意ください。

※プリセット1の「DSP OFF」には保存できません。

※プリセット2～5にはクイックスタート･プリセットが保存されています。プリセット2～5に保存した場合は、クイックスタート･プリセットは消去され元に戻すことはできません。ご注意ください。

メイン･コントロールパネル

ファン回転速度の切り替え

メイン･コントロールパネルの右上にある「ADVANCED」をダブルクリックするとファン回転速度の切り替え画面が表示されます。ファンの回転速度は「Normalモード」「Earlyモード」「Full-Speedモード」の3つのモードがあり、状況に応じて切り替えることができます。工場出荷時に設定されている「Normalモード」はほとんどの用途に適しています。「Earlyモード」は「Normalモード」よりも低い温度でファンが回転し始めます。「Full-Speedモード」は常に最高速度で回転します。

※本機は通気口にフィルターを備えていないため、「Full-Speedモード」はほこりの多い場所では使用しないでください。

仕 様

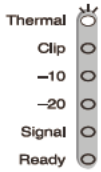
		XTi 6002	XTi 4002	XTi 2002	XTi 1002
ステレオ出力（1kHz、THD0.5%）	2Ω	3,000W+3,000W※1	1,600W+1,600W※1	1,000W+1,000W※1	—
	4Ω	2,100W+2,100W	1,200W+1,200W	800W+800W	500W+500W
	8Ω	1,200W+1,200W	650W+650W	450W+450W	275W+275W
ブリッジモノ出力（1kHz、THD0.5%）	4Ω	6,000W※1	3,200W※1	2,000W※1	—
	8Ω	4,200W	2,400W	1,600W	1,000W
周波数特性（20Hz～20kHz、1W、4Ω）		+0/−1dB			
SN比（1kHz以下、8Ω、Aウェイト）		103dB	100dB		
ダンピングファクター（10Hz～400Hz）		500以上			
入力インピーダンス		20kΩ（バランス）、10kΩ（アンバランス）			
入力感度		1.4V			
入力コネクター		XLR			
出力コネクター		ノイトイック製4Pスピコン（NL4MP）、バインディングポスト			
ネットワークコネクター		USB			
インジケーター		Signal、−10、−20、Ready、Clip、Thermal、Power			
電源		AC100V、50/60Hz※2			
消費電力（IEC60065）		1,700W	1,250W	1,225W	1,200W
寸法（W×H×D）		483×89×412mm（マウント面から）	483×89×311mm（マウント面から）		
質量		10.9kg	8.4kg		

※1.THD1%　※2.XTi 6002の電源端子にはC型コネクターの電源ケーブルがあらかじめ取り付けられています。

トラブルシューティング

以下は、通常発生する症状とその対策です。解決できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

Thermalインジケーターが点灯して音が出ない。

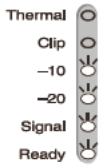


Thermalプロテクション回路が作動しています。放熱のため電源を切って時間を置いてください。通気口が汚れている場合は汚れを取り除きます。

Readyインジケーターが点灯しているが音が出ない。

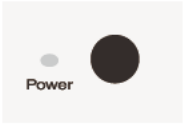
信号が入力されていないかレベルが低すぎる可能性があります。ミキサー等の入力機器の音量や本機のレベルつまみを確認してください。

インジケーターは正常な状態だが音が出ない。



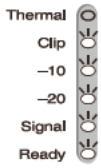
スピーカーが正しく接続されていない可能性があります。スピーカーの接続を確認してください。

電源インジケーターが点灯していない。



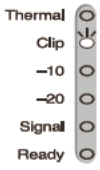
電源ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。電源ケーブルの接続を確認してください。

Clipインジケーターが点灯して音が歪む。



信号のレベルが高すぎるため音が歪んでいる可能性があります。本機のレベルつまみを確認してください。

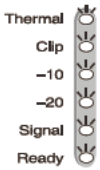
信号を入力せずにレベルつまみを絞りきっていてもClipインジケーターが点灯する。



DC保護回路が作動しています。お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

全てのインジケーターが点灯して音が出ない。

以下の2つの症状が考えられます。



1. Thermalプロテクション回路が作動しています。放熱のため電源を切って時間を置いてください。通気口が汚れている場合は汚れを取り除きます。
2. スピーカーまたはスピーカー･ケーブルがショートしています。Clipインジケーターが点灯している方のスピーカーやスピーカー･ケーブルを一つずつ取り外し、原因の箇所を特定します。不具合があった場合は正常なものに交換します。

この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は、その会社の登録商標または商標です。

HIBINO

http://www.hibino.co.jp/
E-mail:proaudiosales@hibino.co.jp

ヒビノ株式会社　ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL：03-5783-3110　FAX：03-5783-3111

大阪ブランチ
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL：06-6339-3890　FAX：06-6339-3891

福岡ブランチ
〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6
TEL：092-611-5500　FAX：092-611-5509

北海道オフィス
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20
TEL：011-640-6770　FAX：011-640-6776

名古屋オフィス
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL：052-589-2712　FAX：052-589-2719